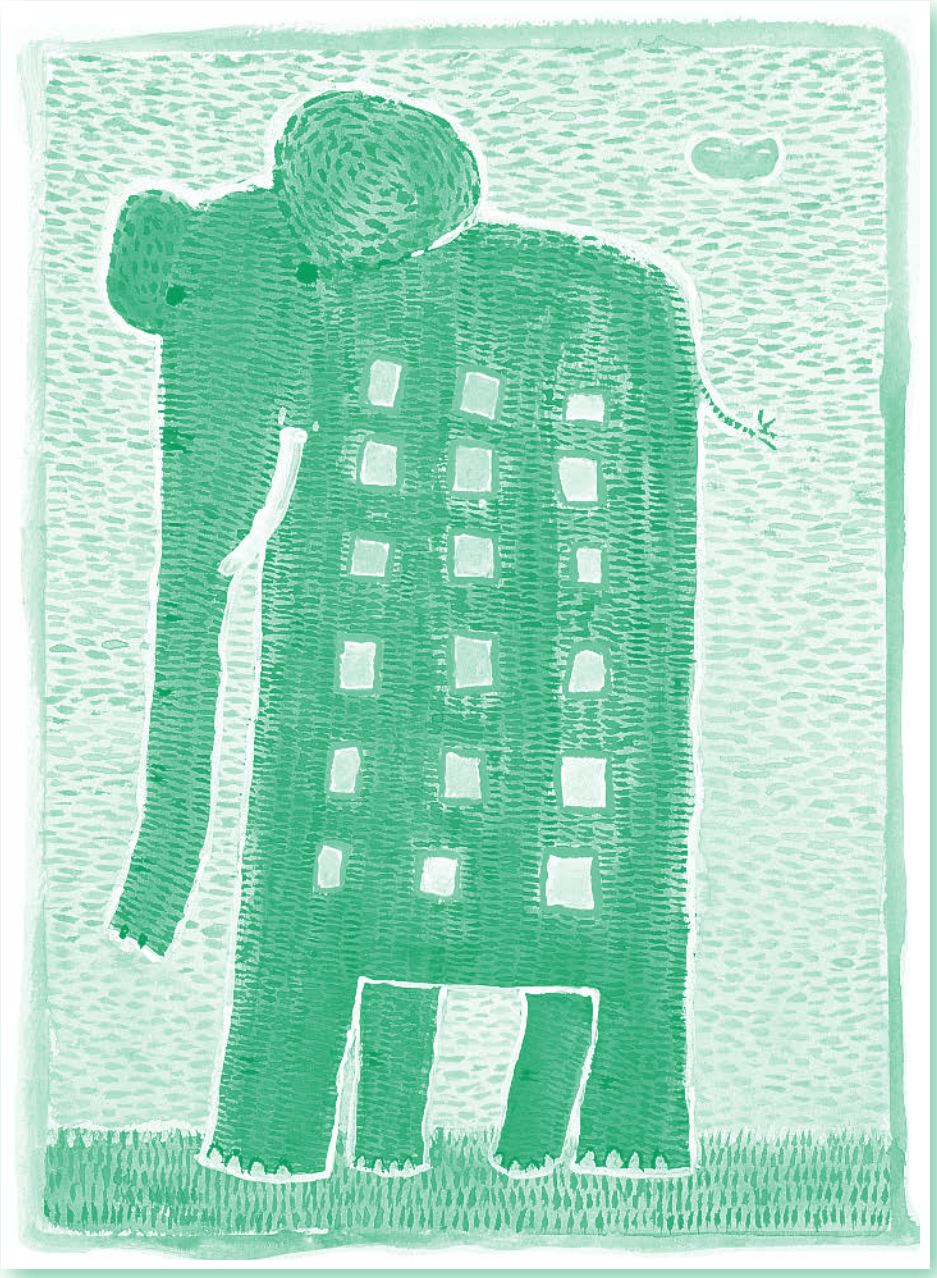
前田建設
MAEDA

MAEDA CSR REPORT

CSR報告書2018

データブック



MAEDA CSR REPORT

CSR報告書2018

データブック

目 次

2　MAEDAのコミュニケーションツール

3　MAEDAの2017年度におけるCSRの取り組みと主なKPI、ISO26000の関係性

5　MAEDAの「CSRの4本柱」に関する活動データ報告

5　●「法令等遵守（コンプライアンス）」
　重点項目：企業統治、リスク管理、法令等遵守、ダイバーシティ推進

7　●「優れた建造物・建設サービスの提供」
　重点項目：労働安全衛生、品質、お客さま、調達

8　●「環境保全への取り組み」
　重点項目：環境経営推進、気候変動への対応、循環型社会構築、生物多様性保全、環境コミュニケーション

17　「地球への配当」プロジェクトと拠出金額

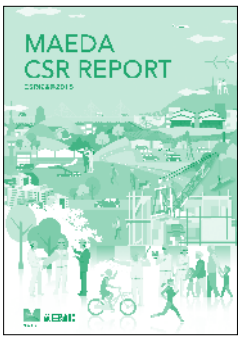
18　グループ会社の環境データ一覧

19　●「企業市民としての社会・地域貢献活動」
　重点項目：社会・地域とのコミュニケーション

19　MAEDA SIIの投資先について

MAEDAのコミュニケーションツール

MAEDAのコミュニケーションツールの構成



MAEDA CSR REPORT 2018

MAEDAおよびグループ会社が取り組んでいるCSR活動を中心に紹介しています。2部構成になっており、パート1では事業活動などを通して当社の考えや戦略を述べ、パート2では当社の「CSRの4本柱」を軸に2017年度の取り組み実績を報告しています。

MAEDA CSR REPORT 2018 データブック

MAEDA CSR REPORT 2018で報告したCSR活動の補足およびKPIについて、経年変化と目標値を示し、その状況をお伝えしています。

MAEDA ANNUAL REPORT

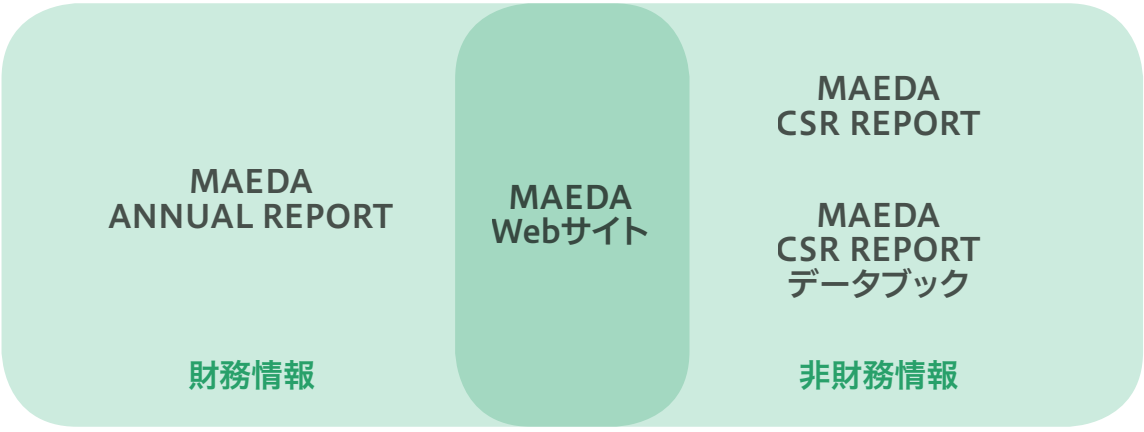
主に海外投資家を対象とし、財務情報、国内外工事情報、CSR活動などの実績とともに、当社の今後の事業戦略についても報告しています。

MAEDA Webサイト

MAEDAの財務情報については「IR情報」サイトにおいて情報公開し、非財務情報については「CSR」サイトにおいて報告しています。

IR情報 ： http://www.maeda.co.jp/ir/index.html
CSR ： http://www.maeda.co.jp/csr/index.html

MAEDA コミュニケーションツールの主な位置づけと関係性



MAEDAの2017年度におけるCSRの取り組みと主なKPI

MAEDAの「CSRの4本柱」	「CSRの4本柱」に属している重点項目	CSR報告書2018　報告項目		報告項目における主な取り組み
		重点項目に対する活動項目	CSR報告書2018対応ページ	
法令等遵守（コンプライアンス）	企業統治 リスク管理 法令等遵守 ダイバーシティ推進	企業統治	P. 23	理念等の浸透・定着
		リスク管理	P. 23～24	BCPへの取り組み
		法令等遵守	P. 25	CSR・コンプライアンス
		人材育成とダイバーシティ 労働慣行 人権	P. 27～30	労務・人権・人事
優れた建造物・建設サービスの提供	労働安全衛生 品質 お客さま 調達	安全に関する取り組み	P. 31～32	現場における安全への取り組み
環境保全への取り組み	環境経営推進 気候変動への対応 循環型社会構築 生物多様性保全 環境コミュニケーション	気候変動への対応	P. 41～42	気候変動に対する取り組み
		循環型社会構築に関する取り組み	P. 43～44	循環型社会構築に向けた取り組み
				グリーン調達の推進
		生物多様性保全に関する取り組み	P. 45	生物多様性の取り組み
		環境コミュニケーション	P. 46	環境教育の充実
				エコアクションの拡大
				環境に関するしくみの充実
企業市民としての社会・地域貢献活動	社会・地域とのコミュニケーション	社会・地域とのコミュニケーション	P. 47～50	地域とのコミュニケーション

当社のCSRの指標である「CSRの4本柱」を軸に、それぞれの軸で捉えている社会的課題、CSR報告書2018の報告項目、各項目で取り組んだ内容とそのKPIおよびISO26000との関係性をそれぞれの関係性を以下の一覧表に示します。

取り組みに関するKPI	KPIの達成度指標	データブック対応ページ	ISO26000 7つの中核課題						
			組織統治	人事	労働慣行	環境	公正な事業慣行	消費者課題	コミュニティ参画および開発
経営規範に関する教育の受講	新入社員受講者率	P. 5	●	●	●		●		
BCP訓練における安否確認メールへの返信	返信率								
CSR戦略会議の実施	実施回数								
障がい者雇用	雇用率	P. 6							
定年者再雇用	再雇用率								
育児休業	取得者数								
配偶者の出産休暇	取得者数								
有給休暇取得	取得率								
ボランティア休暇取得	取得者数								
人権問題に関する教育・研修	参加率								
雇用契約別従業員	雇用者数								
契約社員	雇用率								
離職者	離職者数								
安全成績	度数率	P. 7				●	●	●	
	強度率								
建築物運用段階におけるCO_2排出削減	推定削減率	P. 8							
施工段階におけるCO_2排出	排出原単位								
オフィスにおける電力使用量によるCO_2排出	排出量	P. 9							
	排出原単位								
環境技術の工事受注・売上への貢献	件数（土木）	P. 10							
	件数（建築）								
施工段階における廃棄物の排出量	排出量	P. 11							
施工段階のリサイクル率（汚泥等除く）	リサイクル率								
施工段階における混合廃棄物排出量	延床面積あたりの原単位（住宅）								
	延床面積あたりの原単位（非住宅）								
電子マニフェストの利用	利用率	P. 12				●		●	
オフィスにおける一般廃棄物排出量	排出量								
	排出原単位（1日1人当たり）								
オフィスにおける水使用量	使用原単位（1日1人当たり）								
施工段階におけるグリーン調達品（指定11品目）の調達	調達率								
オフィスにおける文具類グリーン調達品の調達	調達率								
生物多様性をテーマにした技術開発	開発件数	P. 14							
環境意識の向上を目的とした集合教育の実施	実施回数	P. 15							
eco検定の取得	取得者率								
社内エコポイント制度「Me-pon」の普及	参加率								
	利用ポイント数								
環境保全を目的とした資金拠出	「地球への配当」拠出額	P.17							
社会・地域貢献活動の取り組み	取り組み件数	P. 19							●

「法令等遵守（コンプライアンス）」

重点項目	企業統治、リスク管理、法令等遵守、ダイバーシティ推進

◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

企業統治

●理念等の浸透・定着:【KPI】経営規範に関する教育の受講

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
新入社員教育の受講者率	100%	100%	100%	100%	◎	100%

コメント

当社の創業理念・社是を含めた「経営規範」を教育し、浸透させていくことが必要です。「経営規範」を定着させることを目的とし、新入社員を対象とした受講者率を指標として考えています。

リスク管理

●BCPへの取り組み:【KPI】BCP訓練における安否確認メールへの返信

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
メール返信率	—	97%	98%	—	—	—

コメント

発生が懸念される東南海地震などを想定し、会社・個人ともに事前対策の徹底を図っています。社員の安否を確認するメールへの返信訓練においては、95%以上の回答となっています。（2015年度はBCP訓練未実施）

法令等遵守

●CSR・コンプライアンス:【KPI】CSR戦略会議の実施

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
CSR戦略会議実施回数	6回	5回	4回	—	—	—

コメント

CSR戦略会議は、社長を議長とする経営層で構成され、CSR活動の現状把握、評価と今後の方針について審議します。

人材育成とダイバーシティ、労働慣行、人権

●労務・人権・人事:【KPI】労務 ①　ダイバーシティ関連

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
障がい者雇用率	2.06%	1.99%	2.01%	—	—	2.20
定年者再雇用率	84.8%	88.4%	94.7%	—	—	—
女性社員数	289人	317人	341人	—	—	—
女性平均勤続年数	12.9年	12.5年	12.2年	—	—	—
女性管理職者数	22人	23人	25人	—	—	—
女性管理職比率	1.27%	1.35%	1.46%	—	—	—

●労務・人権・人事:【KPI】労務 ②　ワーク・ライフ・バランス関連

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
育児休業取得者数(女性)	16人	18人	22人	—	—	—
育児休業取得者数(男性)休職を伴う	1人	1人	1人	—	—	—
育児休業取得者数(男性)休職を伴わない	9人	34人	53人	—	—	—
介護休業取得者数	0人	1人	0人	—	—	—
有給休暇取得率(取得日数)	22.6%	56.7%	42.1%	—	—	—
ボランティア休暇取得者数	188人	173人	28人	—	—	—

●労務・人権・人事:【KPI】人権問題に関する教育

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
参加率	100%	100%	100%	100%	◎	100%

●労務・人権・人事:【KPI】人事(雇用・採用)関連

KPIの指標		2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
雇用契約別従業員数	正社員数	2,857人	2,945人	3,001人	—	—	—
	男性	—	—	2,660人	—	—	—
	女性	—	—	341人	—	—	—
	現業員数	—	—	341人	—	—	—
	男性	—	—	179人	—	—	—
	女性	—	—	162人	—	—	—
契約社員(現業員)雇用率		—	—	10.2%	—	—	—
離職者数	離職者総数	—	—	28人	—	—	—
	男性	—	—	26人	—	—	—
	女性	—	—	2人	—	—	—
	年齢別			20代:13人 30代: 7人 40代: 4人 50代: 4人	—	—	—
平均年齢		43.9歳	43.8歳	43.7歳	—	—	—
平均勤続年数		18.6年	18.4年	18.2年	—	—	—
新入社員採用人数		114人	114人	130人	—	—	—
	建築系	48人	36人	46人	—	—	—
	土木系	54人	57人	66人	—	—	—
	事務系	12人	21人	18人	—	—	—

MAEDAの「CSRの4本柱」

「優れた建造物・建設サービスの提供」

重点項目	労働安全衛生、品質、お客さま、調達

◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

安全に関する取り組み

●現場における安全への取り組み:【KPI】安全成績

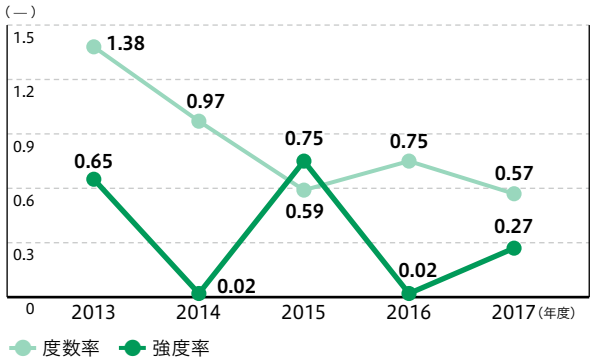
KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
度数率	0.59	0.75	0.57	—	—	—
強度率	0.75	0.02	0.27	—	—	—

度数率:(死傷者数)÷(延べ労働時間数)×1,000,000　　強度率:(労働損失日数)÷(延べ労働時間数)×1,000

コメント

安全成績や災害件数の減少を図るため、災害事例の効果的な水平展開、作業手順の管理、重機・車両災害の防止、および経験の浅い社員、作業者への教育に重点を置いて取り組み、安全な職場環境の実現に努めています。

度数率と強度率の経年変化



「環境保全への取り組み」

重点項目	環境経営推進、気候変動への対応、循環型社会構築、生物多様性保全、環境コミュニケーション

◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

【MAEDA環境方針】

【基本理念】

MAEDAは、地球も大切なステークホルダーと位置づけ、ものづくりを通して人々の豊かで安心な生活の実現に寄与することにより、社会とともに持続可能な発展をめざす

【基本方針】

1. 地球・社会の一員として自覚し、着実かつ先進的な環境経営を推進する
2. 事業活動のすべての段階で、環境との調和と負荷低減に取り組む
3. 環境技術やサービスの創出に努め、新しい価値を創造する
4. 社会との環境コミュニケーションを積極的に展開する
5. 美しく豊かな地球環境を継承するための、人財の育成やしくみづくりを行う

気候変動への対応

●気候変動に対する取り組み【KPI】設計段階:建築物運用段階におけるCO_2排出削減

KPIの指標	2015年度実績値	2016年度実績値	2017年度実績値	2017年度目標値	2017年度達成度	2018年度目標値
CO_2推定削減率	28%	15%	19%	—	—	—
CO_2推定削減量	1,678t-CO_2	955t-CO_2	2,696t-CO_2	—	—	—

コメント

省エネ法で省エネ措置の届出が義務づけられている建築物の運用段階のCO_2排出量抑制のため、設計段階で空調設備や照明設備等の建築設備の省エネ化を図り、消費される一次エネルギーの消費量削減に努めています。2017年度の対象物件(設計物件)では大型物件の影響により一次エネルギーの削減量、推定されるCO_2排出削減量ともに増加しました。

※推定されるCO_2排出削減量の算出は、日本建設業連合会の「省エネルギー計画書&CASBEE評価シート」による

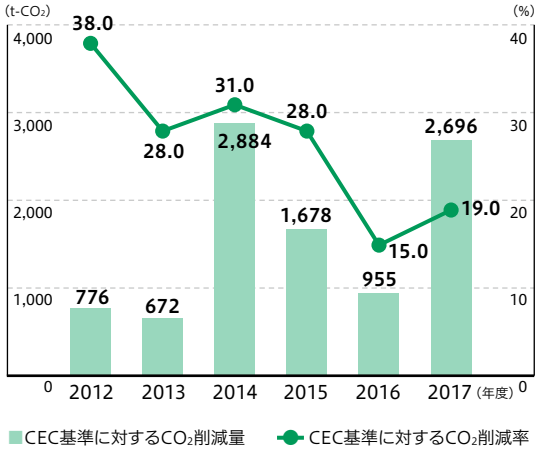
●気候変動に対する取り組み:【KPI】施工段階:施工段階におけるCO_2排出

KPIの指標	2015年度実績値	2016年度実績値	2017年度実績値	2017年度目標値	2017年度達成度	2018年度目標値
CO_2排出原単位(全社)	33.9 t-CO_2/億円	26.5 t-CO_2/億円	25.3 t-CO_2/億円	23.3 t-CO_2/億円以下	△	25.0 t-CO_2/億円以下
CO_2排出原単位(土木)	70.9 t-CO_2/億円	48.9 t-CO_2/億円	43.3 t-CO_2/億円	43.7 t-CO_2/億円以下	○	49.8 t-CO_2/億円以下
CO_2排出原単位(建築)	11.6 t-CO_2/億円	11.5 t-CO_2/億円	15.6 t-CO_2/億円	10.7 t-CO_2/億円以下	×	12.3 t-CO_2/億円以下
CO_2排出量	112 千t-CO_2	89 千t-CO_2	92 千t-CO_2	—	—	—

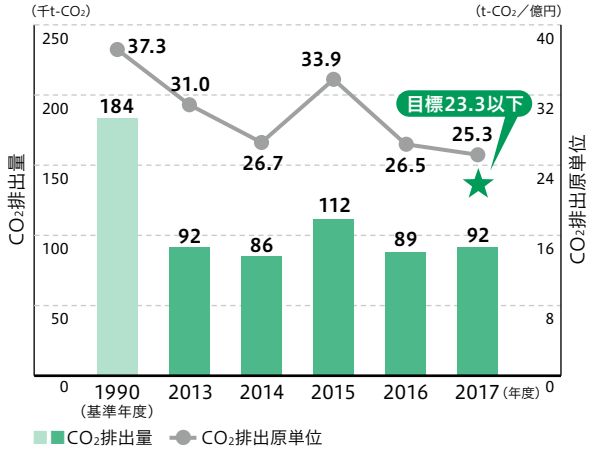
コメント

2017年度の施工段階におけるCO_2排出量は、施工高が増加(8.6%)したこと等により、当期は前年度比3.4%増の92千t-CO_2(当社の定める基準年度:1990年度比50%削減)となりました。CO_2排出原単位については、25.3t-CO_2/億円と前年度より減少し、(当社の定める基準年度:1990年度比32%削減)となりました。

建築物運用段階におけるCO_2発生抑制に関する推移



CO_2(施工活動)の推移



2017年度の作業所における省燃費運転活動実施状況

対象台数	アイドリングストップ	定期検査証保有	省燃費運転講習(座学)	省燃費運転講習(実地)
土木(173,431台)	71.7%(709t-CO_2)	81.1%(802t-CO_2)	42.2%(423t-CO_2)	35.2%(348t-CO_2)
建築(173,402台)	90.0%(736t-CO_2)	86.1%(663t-CO_2)	67.8%(350t-CO_2)	53.6%(288t-CO_2)
全社(346,833台)	80.9%(1,445t-CO_2)	83.6%(1,465t-CO_2)	55.3%(773t-CO_2)	44.4%(636t-CO_2)

※(　)内はCO_2推定削減量

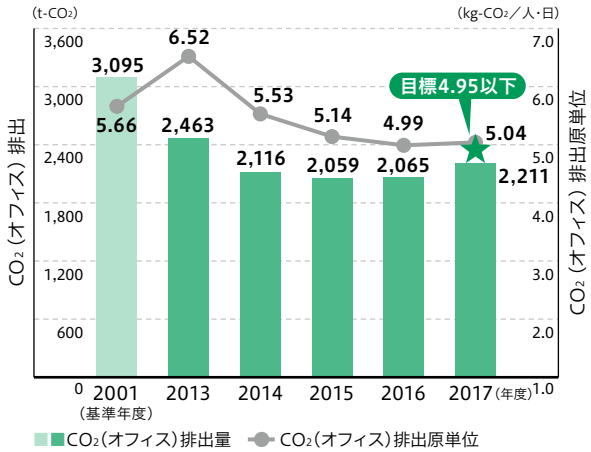
●気候変動に対する取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスにおける電力使用によるCO_2排出

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
CO_2排出 原単位	5.14 kg-CO_2/人・日	4.99 kg-CO_2/人・日	5.04 kg-CO_2/人・日	4.95 kg-CO_2/人・日 以下	×	4.85 kg-CO_2/人・日 以下
CO_2排出量	2,059 t-CO_2	2,065 t-CO_2	2,211 t-CO_2	1,980 t-CO_2以下	×	1,940 t-CO_2以下

コメント

オフィス活動ではCO_2排出量は2,211-CO_2(当社が定める基準年度[2001年]比29%削減)となりました。CO_2排出原単位は5.04kg-CO_2／人・日(当社の定める基準年度[2001年]比10%削減)と前年度より減少しました。引き続きオフィスにおけるCO_2排出量の削減活動を推進します。

CO_2(オフィス活動)の推移



◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

●気候変動に対する取り組み:【KPI】環境技術の工事受注・売上への貢献

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
採用件数(土木)	7件	4件	5件	3件	◎	3件
採用件数(建築)	13件	16件	7件	2件	◎	2件

コメント

環境技術は「提案件数」と「採択件数」に分け、それぞれ目標を設定しています。ここでは、採択件数を示しています。

●気候変動に対する取り組み:【KPI】事業活動の上下流において排出される間接的な排出量(スコープ3)

カテゴリー	2017年度における算定範囲	2015年度 実績値 (t-CO_2)	2016年度 実績値 (t-CO_2)	2017年度 実績値 (t-CO_2)
1. 購入した製品・サービス	当社が購入した製品のうち、購入金額を把握できている製品の排出量	482,630	685,979	820,575
2. 資本財	購入または取得した資本財(有形固定資産、土地を除く)の建設・製造および輸送から発生する排出	4,726	15,171	64,303
3. スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	自社が購入した燃料の上流側の排出量	6,647	4,636	3,187
4. 輸送、配送(上流)	当社が購入した建造物の躯体関係(生コン、鉄筋など)の物流に関する排出量	2,737	5,195	6,520
5. 事業から出る廃棄物	自社の事業活動から発生する廃棄物(有償の物を除く)の自社以外での「廃棄」と「処理」に係る排出量および廃棄物の輸送に係る排出量	29,489	16,555	17,359
6. 出張	業務における従業員の移動(出張など)に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量	371	383	390
7. 雇用者の通勤	事業所への通勤時に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量	1,367	1,409	1,342
11. 販売した製品の使用	自社施工した建造物の使用に伴う排出量のうち、「事務所ビル」「卸・小売業」「飲食店」「学校」「ホテル・旅館」「病院」「集合住宅など」の建築物に係る排出量 ※建物の供用期間(60年と設定)における排出量としたことから、(年間排出量)×(供用期間)で算定	7,294,378	4,924,891	5,050,833
12. 販売した製品の廃棄	自社施工した建造物の「廃棄」と「処理」に係る排出量 ※具体的には、自社購入した製品のうち、「コンクリート」「鉄筋」「鉄骨」「PC」から、それぞれの廃棄物量を差し引いた物量を計算し、これを「販売した製品」と仮定して将来「廃棄」「処理」される量と想定	36,252	44,612	20,044
13. リース資産(下流)	自社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産のうち、建物の運用に伴う排出量	5,218	5,218	5,257
合計		**7,863,815**	**5,704,049**	**5,989,810**

※カテゴリー8「リース資産(上流)」、9「輸送、配送(下流)」、10「販売した製品の加工」、14「フランチャイズ」、15「投資」は対象外としました。

循環型社会構築に関する取り組み

●循環型社会構築に向けた取り組み：【KPI】施工段階における廃棄物の排出

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
廃棄物排出量（全社）	586千t	560千t	593千t	—	—	—
廃棄物排出量（新設のみ）	416千t	319千t	409千t	—	—	—
廃棄物排出量（解体のみ）	170千t	242千t	184千t	—	—	—
廃棄物最終処分量	30千t	26千t	20千t	—	—	—

コメント

（廃棄物排出量）
当社が排出した全廃棄物排出量は、593千t（新築：409千t、解体：184千t）となりました。2017年度は施工高が増えたことにより、廃棄物排出量は前年度比5.8%増となりました。

●循環型社会構築に向けた取り組み：【KPI】施工段階のリサイクル（汚泥等除く※）

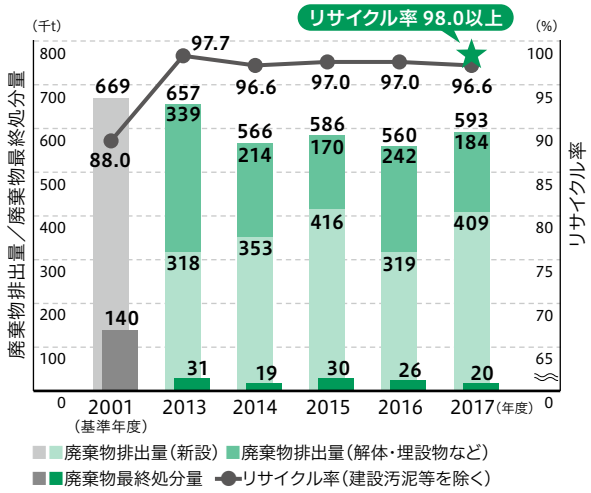
KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
リサイクル率（汚泥等除く）（全社）	97.0%	97.0%	96.6%	98.0%以上	○	98.0%以上
リサイクル率（汚泥等除く）（土木）	98.6%	97.0%	97.2%	99.0%以上	○	98.0%以上
リサイクル率（汚泥等除く）（建築）	94.9%	97.0%	95.7%	97.0%以上	○	98.0%以上

※対象年度に排出した廃棄物のうち、「建設汚泥」、「石綿含有廃棄物」、「特別管理型廃棄物」を対象外としている。
【リサイクル率（%）：（排出量－最終処分量）／排出量×100】

コメント

「リサイクル率（汚泥等除く）」の目標値は、中期環境計画実施期間である2018年度まで一定として設定しています。2017年度は目標未達でしたが、建築・土木ともに90%後半で推移しており、ある程度の段階まで取り組みが進んでいますが、まだリサイクル率の低い作業所の取り組みを進める余地があると考えられます。引き続き廃棄物最終処分量の削減に努めます。

廃棄物（施工活動）推移およびリサイクル率



●循環型社会構築に向けた取り組み：【KPI】施工段階における混合廃棄物排出（建築の新築工事に限る）

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
住宅系混廃原単位（延床面積あたり）	14.1kg/m²	11.2kg/m²	9.3kg/m²	7.5kg/m² 以下	×	6.6kg/m² 以下
非住宅系混廃原単位（延床面積あたり）	9.0kg/m²	6.8kg/m²	5.5kg/m²	6.3kg/m² 以下	◎	5.5kg/m² 以下

コメント

過去の実績を参考に、2015年度から目標値を設定しています。対象年度の完成工事を集計対象としているため、その年度の用途件数に左右される可能性はありますが、混合廃棄物排出量減少をめざし、取り組んでいきます。

◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】電子マニフェストの利用

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
電子マニフェスト利用率	81%	85%	89%	90%以上	○	95%以上

コメント

当社では、廃棄物の適正管理推進を目的に、電子マニフェストの普及を推進しています。地域により利用率が大きく異なっており、2017年度時点においては、中期目標である「90%以上」を達成することができませんでした。今後は電子マニフェスト利用率が低い地域における利用率を向上を図り、一層の廃棄物の適正管理に努めます。

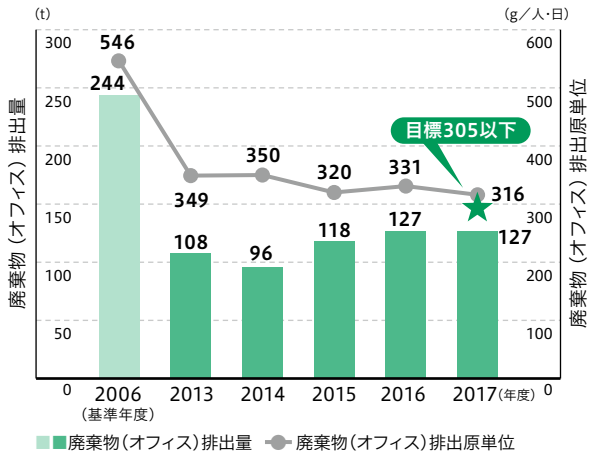
●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】オフィスにおける一般廃棄物排出

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
廃棄物排出原単位(1日1人あたり)	320g/人・日	331g/人・日	316g/人・日	305g/人・日 以下	○	300g/人・日 以下
廃棄物排出量	118t	127t	127t	105t以下	×	100t以下

コメント

2017年度のオフィスの一般廃棄物排出の削減については、排出原単位が目標を達成することができませんでした。引き続き目標を達成できるよう、削減に努めてまいります。

廃棄物(オフィス活動)推移



●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】オフィスにおける水使用量

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
水使用原単位(1日1人あたり)	55L/人・日	56L/人・日	50L/人・日	45L/人・日 以下	×	40L/人・日 以下

コメント

2017年度のオフィスの水使用量の削減については、目標達成できませんでした。引続き、実績推移を確認しながら目標を達成できるように活動を充実させていきます。

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階におけるグリーン調達品(指定１１品目)の調達、オフィスにおける文具類グリーン調達品の調達

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
施工段階のグリーン調達率	59%	56%	45%	55%以上	×	55%以上
オフィスのグリーン調達率	77%	70%	72%	83%以上	×	85%以上

※「指定11品目(コンクリート3種、再生鋼材3種、Low-Eガラス、複層ガラス、ノンフロン断熱材、LED照明、EM電線)」

コメント

施工段階の調達率は、通常コンクリートの調達量が2016年度より大幅に増加したため、全体としてのグリーン調達率が下がりました。オフィスのグリーン調達率は横ばい状態が続いていますが、目標達成に向けた一層の取り組みを推進します。

●循環型社会構築に向けた取り組み：【KPI】施工段階のグリーン調達量（30品目）

	KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
材料12品目	高炉コンクリート	176,178m³	167,301m³	159,987m³	—	—	—
	フライアッシュコンクリート	22,774m³	78,551m³	8,120m³	—	—	—
	再生コンクリート	430m³	0m³	0m³	—	—	—
	電炉H鋼・鋼矢板	3,386t	14,267t	9,703t	—	—	—
	電炉鉄筋	81,379t	71,652t	85,828t	—	—	—
	高炉スラグ細骨材	23,178t	3,132t	4,776t	—	—	—
	建設発生土再利用	975,040m³	164,737m³	62,359m³	—	—	—
	建設汚泥から再生した処理土	41,696m³	16,304m³	28,487m³	—	—	—
	再生骨材等	61,614t	105,040t	56,901t	—	—	—
	再生加熱アス混合物	5,473t	6,926t	11,119t	—	—	—
	代替型枠	17,310m²	19,590m²	3,867m²	—	—	—
	PC材	3,113m³	32,274m³	23,627m³	—	—	—
内・外装材7品目	Low-Eガラス	9,074m²	36,915m²	26,071m²	—	—	—
	複層ガラス	19,192m²	27,609m²	9,535m²	—	—	—
	屋上緑化	1,339m²	5,840m²	1,140m²	—	—	—
	壁面緑化	1,185m²	1,544m²	109m²	—	—	—
	再生木質ボード	61,468m²	372,581m²	42,710m²	—	—	—
	間伐材（国産材）	59m³	1,648m³	184m³	—	—	—
	ノンフロン断熱材	486,580m²	546,156m²	475,199m²	—	—	—
設備系11品目	自動制御ブラインド	0カ所	98カ所	0カ所	—	—	—
	地中熱利用システム	0kW	10kW	0kW	—	—	—
	太陽光発電	20,060kW	8,823kW	46kW	—	—	—
	太陽熱利用	0m2	6m²	0m²	—	—	—
	風力発電	0kW	4,000kW	22,400kW	—	—	—
	燃料電池	0kW	1kW	0kW	—	—	—
	LED照明	31,611台	42,775台	53,975台	—	—	—
	EM電線	456,677m	514,959m	293,686m	—	—	—
	節水便器	1,175組	1,599組	1,066組	—	—	—
	吸収冷温水器	4基	0基	4基	—	—	—
	ガスヒートポンプ	164台	348台	400台	—	—	—

コメント

グリーン調達に関しては、2016年度から集計品目を29品目から30品目に増やしました。建築物の省エネに貢献する設備系の品目を増やしています。2018年度からはEPD（環境製品宣言）認証製品を新たに追加して採用を推進します。

生物多様性保全に関する取り組み

【MAEDA生物多様性行動指針】

【基本理念】

MAEDAは、地球も大切なステークホルダーと位置づけ、企業市民として、事業を通して、またひとりの個人として、人と自然が支えあう社会の創造に向けた環境活動に誠実かつ意欲的に取り組み、地球からの大切な恵みである生物多様性の保全と持続可能な利用を推進します。

【行動指針】

事業を通した行動

■事業活動への展開
MAEDAは、調達・運用を含めた全ての事業領域における環境配慮の推進により、生物多様性の保全と生態系サービスの持続可能な利用に努めます。

■研究、技術開発
MAEDAは、生物多様性の保全・回復と持続可能な利用に寄与する情報の収集、技術開発に取り組み、これを積極的に顧客、社会へ提案します。

企業市民としての行動

■地球への配当
MAEDAは、豊かな自然の恵みを未来へと引き継ぐため、生物多様性の保全・回復に資する様々な社会活動に対し、「地球への配当」として積極的な支援を行います。

■コミュニケーション
MAEDAは、生物多様性に関する自主的な取り組みや成果について積極的に情報開示し、広く社会と共有することで、顧客、行政、地域社会、NGO／NPO等との連携、対話を図ります。

■教育・啓発
MAEDAは、環境教育・啓発活動を通じて、社員、協力会社の生物多様性に関する理解の促進と意識の向上に努めます。

個人としての行動

■活動の場の提供
MAEDAは、生物多様性への意識を個人としての行動に結びつけられるよう、社員ひとり一人が自発的に環境活動に参画できる場の提供に努めます。

■地球市民としての活動
MAEDAの社員は、地球市民の一人として、また家族、協力会社、地域社会などと連携し、生物多様性に関する自主的な貢献活動を推進します。

制定:2010年5月22日

●生物多様性の取り組み:【KPI】生物多様性をテーマにした技術開発

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
開発テーマ研究の件数	6件	1件	2件	1件以上	◎	1件以上

コメント

生物多様性への取り組みは、現場での取り組みを充実させるとともに、現場や設計に活かせる技術開発にも注力しています。これは、「MAEDA生物多様性ガイドライン」に示されている「MAEDA 6つの大目標」の一つに掲げられています。今後も引き続き、生物多様性保全のための研究・技術開発を積極的に推進し、またこの技術を顧客や社会に提案していきます。

環境コミュニケーション

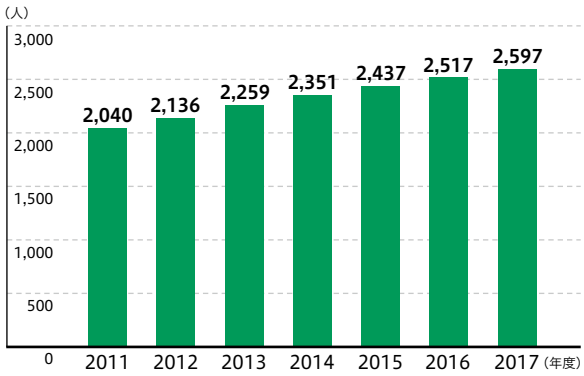
●環境教育の充実：【KPI】環境意識の向上を目的とした集合教育の実施、eco検定の取得

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
集合教育の実施回数	7回	7回	9回	9回/年以上	◎	9回/年以上
eco検定取得者率	83%	86%	87%	90%以上	○	95%

コメント

当社は、若手職員を対象として、CSR・コンプライアンスやMAEDAの環境経営など、環境に対する理解度向上に努めています。環境教育の機会を充実させ、浸透・定着できるように、毎年教育プログラムを見直しています。また環境に対する基礎知識の拡充を目的として、eco検定の取得推進をしており、約87%（2,597人、2018年3月現在）の職員が有資格者となっています。

eco検定合格者の推移（累計）



●エコアクションの拡大：【KPI】社内エコポイント制度「Me-pon」の普及

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
参加者率	19%	34%	43%	—	—	—
参加者数	734人/年	1,214人/年	1,301人/年	1,050 人/年以上	◎	1,200 人/年以上
利用ポイント数	355,390 P/年	395,760 P/年	1,183,625 P/年	1,200,000 P/年以上	○	1,500,000 P/年以上
累計の取得ポイント数	3,786,763P	4,154,486P	4,616,988P	—	—	—
累計の交換ポイント数	2,045,805P	2,441,565P	3,625,190P	—	—	—
登録者数（社員）	3,258人	1,768人	1,870人	—	—	—

コメント

2010年度から運用されている当社独自のMAEDAエコポイント制度「Me-pon」は、個人の活動を推進するとともに、環境に対する意識向上を目的としています。2013年度から具体的な目標を掲げて企画・運営するために、実運用者数の増加とポイントの利用促進を管理項目として、「Me-pon」の普及に努めています。

2016年度に「参加者のエコ活動のさらなる促進」を目的に実施したリニューアルし、エコポイントの利用期限を“獲得後3年後の年度末まで”としました。Me-ponは「ポイントを貯めても使ってもエコなしくみ」をめざしており、参加者の獲得ポイントならびに利用ポイントが増えれば増えるほど、参加者のエコ活動が活発化していると考えています。2017年度末は初めての獲得ポイントの利用期限を迎えるということから、商品交換を行った参加者が例年よりも増え、商品交換金額にして約13百万円（前年度比2.4倍）となりました。なお、2016年度のリニューアルに伴い登録者数の定義を変更しています（2015年度は退会者も含んだ累計）。

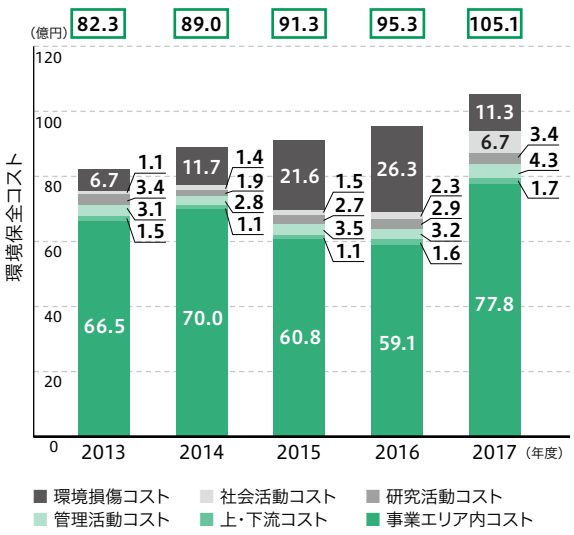
◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

●環境保全コストの集計:【KPI】環境保全コスト

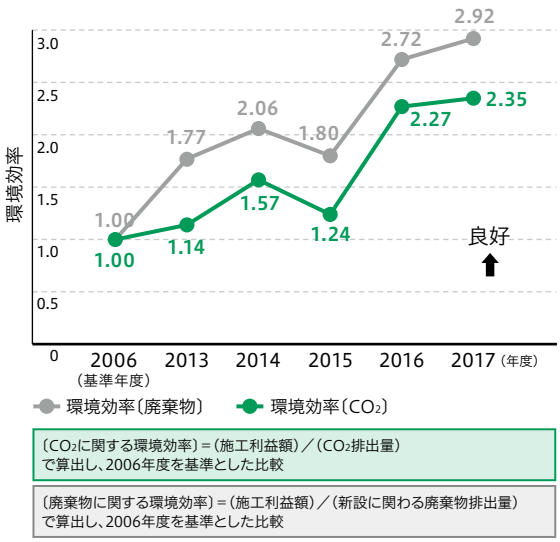
環境保全コスト区分			2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
大区分		中区分	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)	費用(億円)	(構成比)(%)
事業エリア内コスト	公害防止コスト	大気汚染防止	7.0	(8.5)	3.6	(4.0)	6.6	(7.0)	3.6	(3.7)	9.6	(9.1)
		水質汚濁防止	8.8	(10.7)	6.8	(7.7)	6.4	(6.7)	6.1	(6.4)	7.4	(7.0)
		土壌、地下水汚染防止	0.1	(0.1)	1.5	(1.7)	0.1	(0.1)	0.5	(0.6)	1.6	(1.5)
		騒音、振動防止	5.8	(7.1)	7.0	(7.9)	5.5	(5.8)	2.9	(3.0)	4.6	(4.3)
		地盤沈下防止	0.2	(0.3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	(2.9)
		その他公害防止	0.7	(0.9)	0.1	(0.2)	0.3	(0.4)	3.2	(3.4)	0.4	(0.4)
		小計	22.6	(27.5)	19.0	(21.4)	18.9	(20.7)	16.3	(17.1)	26.5	(25.2)
	地球環境保全コスト	温暖化防止・省エネルギー	2.4	(2.9)	0.4	(0.4)	0.2	(0.2)	0.4	(0.4)	0.4	(0.4)
		オゾン層破壊防止、その他	0.0	0.0	4.1	(4.6)	0.1	(0.1)	0.6	(0.6)	0.2	(0.2)
		小計	2.4	(2.9)	4.5	(5.1)	0.3	(0.3)	1.0	(1.1)	0.6	(0.6)
	資源循環コスト	建設副産物減量化、リサイクル	2.7	(3.3)	8.6	(9.7)	2.6	(2.7)	1.4	(1.5)	2.7	(2.5)
		節水、雨水利用等コスト	0.1	(0.1)	0.4	(0.4)	0.1	(0.1)	0.4	(0.4)	0.3	(0.2)
		廃棄物処理費	38.7	(47.1)	37.5	(42.1)	38.9	(40.8)	40.0	(42.0)	47.8	(45.5)
		小計	41.5	(50.5)	46.5	(52.2)	41.6	(45.5)	41.8	(43.9)	50.7	(48.2)
	事業エリア内コスト計		66.5	(80.9)	70.0	(78.7)	60.8	(66.5)	59.1	(62.1)	77.8	(74.0)
上・下流コスト		グリーン購入のためのコスト	0.5	(0.7)	0.2	(0.3)	0.1	(0.1)	0.4	(0.4)	0.7	(0.7)
		環境配慮設計コスト	1.0	(1.2)	0.9	(1.0)	1.0	(1.0)	1.2	(1.3)	1.0	(0.9)
		小計	1.5	(1.9)	1.1	(1.2)	1.1	(1.2)	1.6	(1.7)	1.7	(1.6)
管理活動コスト		環境教育費用	0.4	(0.4)	0.5	(0.5)	0.4	(0.4)	0.5	(0.6)	0.8	(0.7)
		EMS運用コスト	0.9	(1.0)	0.9	(1.1)	1.0	(1.0)	1.0	(1.0)	1.0	(1.0)
		環境負荷の監視・測定	0.9	(1.2)	0.7	(0.8)	1.5	(1.6)	0.9	(0.9)	1.7	(1.7)
		環境関連部門コスト	0.9	(1.1)	0.7	(0.8)	0.6	(0.6)	0.8	(0.8)	0.8	(0.7)
		小計	3.1	(3.8)	2.8	(3.2)	3.5	(3.8)	3.2	(3.3)	4.3	(4.1)
研究活動コスト		小計	3.4	(4.1)	1.9	(2.2)	2.7	(3.0)	2.9	(3.1)	3.4	(3.2)
社会活動コスト		現場周辺美化対策コスト	0.1	(0.1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	(0.9)	0.1	0.0
		地域支援・環境関連基金・寄付等	0.7	(0.9)	1.0	(1.1)	1.2	(1.3)	1.1	(1.2)	6.2	(5.9)
		情報公開・環境広告コスト	0.3	(0.4)	0.4	(0.5)	0.3	(0.3)	0.3	(0.3)	0.5	(0.5)
		小計	1.1	(1.3)	1.4	(1.6)	1.5	(1.6)	2.3	(2.4)	6.7	(6.4)
環境損傷コスト		土壌汚染、自然破壊等の修復コスト	6.7	(8.1)	11.7	(13.1)	21.6	(22.7)	26.3	(27.6)	11.3	(10.7)
		環境の損傷に対応する引当金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		環境保全に関わる和解金、補償金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		小計	6.7	(8.1)	11.7	(13.1)	21.6	(23.7)	26.3	(27.6)	11.3	(10.7)
環境保全コスト		合計	82.3	(100.0)	89.0	(100.0)	91.3	(100.0)	95.3	(100.0)	105.1	(100.0)

※再集計により、コストを修正しました。

環境保全コスト



環境効率



●環境に関するしくみの充実：【KPI】環境保全を目的とした資金拠出

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
「地球への配当」拠出額	114,954（千円）	200,022（千円）	602,588（千円）	—	—	—

コメント

当社では、連結純利益の2%を「地球への配当」として拠出し、地球環境保全活動を推進しています。単に資金を拠出するだけでなく、長期的な視点に立って支援できるプロジェクト、また社員やその家族が参加できる活動などの条件を満足していることを確認した上で、NPOなどに対して支援し、協働しながら環境活動を行っています。

2017年度「地球への配当」プロジェクトと拠出金額（社会的課題への支援を含む）

カテゴリー	搬出項目	拠出額（円）	
MAEDAの森	MAEDAの森 佐久2 森林整備活動	772,248	3,397,534
	MAEDAの森 ふくい 森林整備活動	55,817	
	MAEDAの森 たかもり 森林整備活動	1,454,228	
	MAEDAの森 新入社員森林整備活動	1,115,241	
エコシステム	生物多様性アクション大賞への支援	1,000,000	1,128,926
	竹富島 ツマベニチョウ保護活動への支援	128,926	
エコスクール	学校の森・子どもサミット協賛金	500,000	500,000
エコエイド	ベトナム森林復旧プロジェクトへの支援	910,800	925,800
	日本ユニセフ寄付金	15,000	
エコエンジェル	グリーン電力証書の購入	2,390,320	12,570,970
	NPO・NGO法人への環境活動支援・調査に対する寄付	280,000	
	経団連自然保護協議会への寄付	2,000,000	
	外濠水辺再生協議会会費	2,000,000	
	生物多様性教育への支援（植栽および客土工事）	4,500,000	
	障がい者の自立支援活動に対する寄付	5,800	
	発展途上国の子供たちの支援活動に対する寄付	100,000	
	先進医療、心と体の健康への貢献に対する寄付金	1,153,650	
	防災・減災・安全に関する研究や活動に関する寄付金	141,200	
グリーンR&D	地球環境・社会的課題解決のための技術開発支援（2017年度拠出なし）	—	—
MAEDA SII	地球環境・社会的課題解決事業に取り組むベンチャー企業への出資（2件）	570,200,000	570,200,000
エコポイント制度	Me-pon交換商品の購入	13,865,419	13,865,419
合　計		602,588,649	

※MAEDA SIIの取り組みについては、P. 19をご参照下さい。

◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

グループ会社の環境データ一覧

KPIの指標			2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値
(株)ジェイシティー	CO_2排出量	t-CO_2	2,046	2,053	1,907
	廃棄物排出量	t	84	158	165
	水使用量	m^3	37,192	38,951	31,798
フジミ工研(株)	CO_2排出量	t-CO_2	1,617	1,812	2,193
	廃棄物排出量	t	2,042	1,953	3,284
	水使用量	m^3	27,271	23,268	31,383
(株)JM ※オフィス活動のみ集計	CO_2排出量	t-CO_2	243	216	236
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m^3	—	—	—
(株)エフビーエス・ミヤマ (旧ミヤマ工業を含む) ※オフィス活動のみ集計	CO_2排出量	t-CO_2	87	85	61
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m^3	1,065	1,073	703
光が丘興産(株)	CO_2排出量	t-CO_2	543	426	429
	廃棄物排出量	t	10	8	7
	水使用量	m^3	15,379	17,077	16,089
(株)ウィーゴカントリー倶楽部	CO_2排出量	t-CO_2	337	190	313
	廃棄物排出量	t	12	6	5
	水使用量	m^3	11,010	10,820	17,333
総 計	**CO_2排出量**	**t-CO_2**	**4,873**	**4,782**	**5,139**
	廃棄物排出量	**t**	**2,149**	**2,215**	**3,461**
	水使用量	**m^3**	**91,917**	**91,189**	**97,306**

※オフィス活動の廃棄物排出量について、テナントのため集計が難しい会社は、数値を－としている。

コメント

MAEDAグループは、建設関連の事業だけでなく、多種多様な業種から成り立っています。全国展開している事業もあれば、地域に根差して活動している会社もあります。今回、データブックに掲載している環境数値は、CO_2排出量、廃棄物排出量、水使用量の主要3項目に絞っています。多種多様な事業形態のため、取得不可能なケースや限定されるケースがありますが、各会社が取得できる範囲を明確にして、数値を集計しています。今後、削減に向けた活動を充実させ、グループ全体の環境負荷低減に努めていきます。((株)エフビーエスと㈱ミヤマ工業は2017年7月に合併し、(株)エフビーエス・ミヤマとなりました)

MAEDAの「CSRの4本柱」

「企業市民としての社会・地域貢献活動」

重点項目	社会・地域とのコミュニケーション、社員の環境意識向上

◎:100%達成　○:95%以上達成　△:90%以上達成　×:未達成

社会・地域とのコミュニケーション

●地域とのコミュニケーション:【KPI】社会・地域貢献活動の取り組み

KPIの指標	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2017年度 実績値	2017年度 目標値	2017年度 達成度	2018年度 目標値
取り組み件数	617件	670件	563件	—	—	—

コメント

各支店や営業所、現場における社会貢献活動の推進を目的として、取り組みのデータベース登録を行っています。また、支店からの推薦とその取り組み内容から、年2回、表彰を行っています。目標値は設定していませんが、全社で積極的に取り組まれています。

MAEDA SIIの投資先について

地球への配当の3つの制度のひとつ「MAEDA SII」は、様々な社会課題の解決に取り組むベンチャー企業等に対する投資を行う制度です。2015年度の設立以来、多数の企業・団体と接触し、これまで主に下記案件に拠出しています。

投資先	支援する技術開発と解決を目指す社会課題
マゼランシステムズジャパン株式会社	最先進GNSS技術による自動化・ロボット化技術を開発し少子高齢・人口減少といった社会課題の解決に貢献
CONNEXX SYSTEMS 株式会社	世界的にも最先進の素材技術、畜電池技術を提供し、社会的エネルギー問題の解決に貢献
エムナプラ株式会社	次世代パワーデバイス関連技術を提供し、次世代情報化社会基盤の整備を促進
ミツフジ㈱	健康増進による新たなライフスタイル創造し、企業の健康経営や将来の高齢化社会の対応に寄与
㈱トヨコー	世界で唯一の屋外利用可能な強力レーザーヘッド技術により革新的なインフラ維持管理を実現
その他	次世代情報通信に係る技術・サービスや、ITの活用により成長が期待できる先進企業への投資を通じ、IoTなどによる生産性向上に貢献する

【CSR報告書2018データブック表紙について】

当社は、障がいのある方々が創作するあたたかみのある作品を、カレンダーや社内報などのデザインに使用し、この活動を通して彼らの自立を支援しています。この活動は、2018年で26年目を迎えました。

本年度のデータブックの表紙は、蔵貫 信さんの作品「ビル ぞう」です。

M A E D A

シンボルマーク天空の地平線の意味

環境との調和

前田建設の頭文字である「M」の中に青空に浮かぶ緑の地球。
美しい地球の環境を敏感にとらえ、美しい人間生活に貢献しようとする姿勢を表現しています。

信頼のテクノロジー

カラーで精緻なグラフィック表現は、先進的なハイテクノロジーを象徴するとともに、
安定性を持ちながらも天空に向かっていこうとする、大志を抱くイメージを持っています。

美的価値の尊重

従来のマークの域を超えた、リアルなグラフィック表現の採用には、建造物は勿論、
その施工のプロセスでも美しくありたいとする願いが込められています。

本報告書について

印刷物製造作成にあたりCSR報告書においては、4,222kg-CO_2のCO_2を排出しています（1冊あたり約528g）。
そこで、編集や製造工程で使用する電力9,000kWhにグリーン電力を使用しています。
（CO_2排出量は、『Printing Goes Green』により算出）

本印刷は、視認性、判読性に優れた書体であるユニバーサルデザインフォントを採用しています。

本報告書の制作にあたり、環境への配慮を行っています

80%再生紙	リサイクル対応印刷物	グリーン電力の使用	グリーンプリンティング	ライスインキ	FSC森林認証マーク
R80	リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。	Green Power BIOMASS	GREEN PRINTING JFPI P-B10149	RICE INK	FSC www.fsc.org 森林を永遠に育てる 責任ある利用 FSC® C022870

お問い合せ先

前田建設工業株式会社
CSR・環境部

TEL: 03-5276-5134（ダイヤルイン）
URL: http://www.maeda.co.jp